

## 選挙：名古屋市長選 河村氏、大差で3選 減税、一定の評価 減税日本、参院選擁立狙う

毎日新聞 2013年04月22日 中部朝刊

任期満了に伴う名古屋市長選は21日投開票され、現職の河村たかし氏（64）＝減税日本推薦＝が、前自民市議の藤沢忠将氏（43）＝自民愛知県連推薦、民主県連支持＝と前大学講師の柴田民雄氏（48）＝共産推薦＝を大差で破り、3選を果たした。河村氏が1期4年で進めた全国初の個人・法人市民税の5%恒久減税や議員報酬半減が、有権者から一定の評価を受けた。河村氏は「選挙で民意を得た」として、2期目も減税を継続し、議員報酬半減の恒久化に取り組む考えだ。投票率は39・35%で、2011年の出直し市長選の54・14%より14・79ポイント低くなった。

河村氏は21日夜に記者会見し、「減税や議員報酬半減をやれ、と市民が明確な意思表示をした。減税は継続し、議員報酬半減は近く市長提案で恒久化条例を出す」と述べた。

市民税減税の是非が最大の争点となった。「名古屋から庶民革命を起こす」と強調した河村氏は「減税は市民の懐を豊かにする最大の市民サービス。廃止すれば増税になる」と継続を訴え、廃止を主張する藤沢、柴田両氏を退けた。抜群の知名度を生かし、自民や民主支持層にも食い込んだ。

河村氏は民主党衆院議員から09年に市長に初当選した。減税の実施などを巡って市議会との対立が深まり、市議会解散請求（リコール）を成立させ、1期目任期途中の11年にいったん辞職し、出直し市長選で再選された。今回は3回目の当選で、2期目となる。

河村氏が率いる減税日本は12年12月の衆院選で議席を失い、河村氏の求心力も低下していた。市長選を制して、「勢いを取り戻した」（減税幹部）とし、河村氏は21日夜の記者会見で夏の参院選での候補者擁立に意欲を示した。ただ、河村氏の得票率（有効投票数に占める得票の割合）は62・19%と前回より7・6ポイント下がった。投票率の低下に加え、新たな目玉公約がなかったことや減税日本市議の不祥事などが影響したとみられる。

藤沢氏は自民と民主の支援を得て、終盤には自民の石破茂幹事長や小泉進次郎青年局長の応援を受けた。しかし、公明や連合愛知が自主投票としたことで「反河村」勢力を結集できなかった。柴田氏は福祉政策の充実を掲げたが、及ばなかった。

【三木幸治】